

2017年度活動報告書（小林昌廣）

1 学内での活動

①プロジェクト活動

a. ATP（アートで／を考えるプロジェクト）

ゼミ運営、ゲストトーク、読書会、学生の展覧会準備など

b. iLAP（IAMAS図書館・アーカイブ・プロジェクト）

「図書館長が選ぶ今週の一冊」（毎週木曜日18時半～）

「大人のためのブックトーク」（岐阜県図書館、年6回）

②委員会活動

図書館運営委員会

学生委員会

2 学外での活動

①ネットワーク大学コンソーシアム岐阜・公開講座「古典への誘い～落語とその周辺」

（岐阜大学サテライトキャンパス、隔週金曜日19:00-20:30、全24回）

<http://www.gifu-uc.jp/kouza/2017/kouza01.html>

②「大人のためのブックトーク」

（岐阜県図書館、年6回）

<http://www.library.pref.gifu.lg.jp/event/booktalk/top.html>

③かすがい熟年大学講座

「歌舞伎の魅力」

（2017.6.27. 文化フォーラム春日井）

「落語の世界」

（2017.11.7 文化フォーラム春日井）

<http://www.city.kasugai.lg.jp/shimin/bunka/syogai/>

jyukunendaigaku/index.html

④京都造形芸術大学藝術学舎「岐阜ゆかりの落語」講義

（2017.10.8 岐阜市民会館 桂文治との共演）

<https://mananavi.com/>

[ld_9edfedb956771b8ea71f83a299500c03/](https://mananavi.com/ld_9edfedb956771b8ea71f83a299500c03/)

⑤NHKカルチャー岐阜教室「江戸の暮らし、江戸の知性」

（全3回、NHKカルチャー岐阜教室）

<https://www.nhk-cul.co.jp/information/school/4100/>

[gifu_tab201801.pdf](https://www.nhk-cul.co.jp/information/school/4100/gifu_tab201801.pdf)

⑥伝統芸能文化創生プロジェクト「落語 The シンポジウム」

（藤山直樹、大田純寛との共演、2018.2.3. 京都芸術センター）



<http://www.kac.or.jp/events/22609/>

- ⑦伝統芸能文化創生プロジェクト講座シリーズ#3「女流義太夫を知る」
（竹本雛子、豊澤雛文との共演、2018.2.17 京都芸術センター）

<http://www.kac.or.jp/events/22730/>

- ⑧伝統芸能文化創生プロジェクト「先覚に聴く」
（梶谷宣子、栗田純司との共演、2018.3.10 京都芸術センター）

<http://www.kac.or.jp/events/22777/>

- ⑨KAC Performing Arts Program 2017/Traditional Performance 継ぐこと・伝えること60「沓占式一下駄占い」
（茂山童司、村川拓也、井上治、齋藤登、長澤慶太との共演、2018.3.4 京都芸術センター）

<http://www.kac.or.jp/events/22658/>

- ⑩土方巽記念秋田舞踏会における講演「土方巽と日本の古典芸能」
（2017.10.29 秋田公立美術大学「ももさだ」）

- ⑪伝統芸能創生プロジェクト「金剛流 松風～見留～」事前トーク
（2017.11.8 札幌市教育文化会館大ホール）

<http://nougaku.saloon.jp/archives/26307>

- ⑫岐阜市文化会館市民ふれあい事業「市民スタッフ育成事業」研修レクチャー「落語と歌舞伎」
（2017.11.26 岐阜市民会館）

- ⑬図書館地区別研修講演「本の虫」
（2017.11.7 ソフトピアジャパンセンター）

先覚に聴く
梶谷宣子さん（女流義太夫）
栗田純司さん（先代義太夫）

日時：2018年3月10日（土）15:00開始
会場：京都芸術センター 講堂

継ぐこと・伝えること60
沓占式 一下駄占い
伝統から創作へ

出演：齋藤登、小林昌廣、村川拓也、井上治、茂山童司

日時：2018年3月4日
会場：京都芸術センター 講堂

金剛流能
松風 見留
2017年11月8日（土）19:00開演

札幌市教育文化会館大ホール



講師 小林昌廣
I.A.M.S.情報科学芸術大学院大学教授、
医学と芸術を3つの頂点とする三
角形の中心に身体を据える独自の身
体観を表現、古典芸能にも演舞が深い。

10月29日（日）13時-14時（12時30分開演）
日本独自の伝統と前衛の混合形態を持つダンスのスタイルとして認知されている土方巽の舞踏ですが、これまで、欧米のダンスや民族芸能との比較で語られるのみでした。海外の舞踏愛好家から、日本的な美しさが魅力と称賛される舞踏の本質を歌舞伎、落語など日本の古典芸能と舞踏に詳しい小林昌廣先生をお招きし、お話しいただきます。小林先生は2015年、シェイクスピアの『ハムレット』を原作に、脚色を担当されました。（演出は金沢舞踏主宰の山本明子）日本舞踊、能、浄土、新内、華道、コンテンポラリーダンスが共演し、現代と古典がクロスオーバーする摩訶不思議な舞台を実現、西洋の物語を通して日本の伝統芸能に触れる。まさに古今東西を体験する舞台は非常に新鮮だったと評判を得ました。そしてこの度、山本明子舞踏の公演開催に当たり、秋田での講演を引き受けて下さいました。日本の古典芸能は各地の民族芸能が高度に洗練され、発展を遂げたものとされています。土方巽の舞踏が芸術として世界に認められ、現在より一歩進んで発展している根拠に迫る興味深い講演です。

土方巽と日本の古典芸能

「病める舞姫」

舞踏の原風景と言われる「病める舞姫」の舞台、秋田市。土方巽こと、米山九日生は何を感じ、何を見たのか？昭和初期、県都として、港町として栄えた秋田市は外人墓地、教会、公立病院、大学や高校、遊郭や繁華街が田園の中に点在し、あるいは密集していました。豊かな農村風景、素朴な庶民の暮らしと洗練された都市文化と異人たちのハイカラな文化が混在する風土の中で少年の人間と自然に対する観察力と芸術的感性と異能は育まれ、世界の舞踏は生まれたといえます。難解といわれるこの魅力的な文学書をすべての芸術の原点として、私達は秋田市から発信し続けております。

同時上演 13時開場13時30分開演
10/14

朗読劇「病める舞姫」14章
雪の広野を歩く日マントと黒でんぶをまとった二人の女。その会話はそのまま舞踏制作のヒントであり、すべての芸術の創造の貴重な思考につながると思えよう。
朗読構成・梁田恵一
出演・山川建夫、小野紀子、佐藤正和、佐藤みつ子



西谷由美子

10/15 舞踏公演「秋田の身体」
「病める舞姫」10章より九日生少年の生家の近く、旭川の土手を取たというのには薄物一枚でまろびながら少く老姿。その姿は子供心に味わい深い、景色だった。美とは何か。芸術とは何か。演出・梶谷宣子、矢野文子、カナカインジョーズ
出演・千葉都子、大森恵子、コージ、佐藤みつ子、佐藤正和

土方巽生誕90年記念

舞踏の創始者土方巽は1928年秋田市に生まれ、20歳で上京するまでを過ごしました。来年、2018年の生誕90年を記念し、3大舞踏公演を開催します。

10月14日 小林嵯峨舞踏公演
10月15日 大野慶人舞踏公演
10月29日 山本明子舞踏公演

会場：全公演・秋田公立美術大学
多目的ホールももさだ

主催：NPO土方巽記念秋田舞踏会
助成：独立法人日本芸術文化振興会
秋田県文化による地域の元氣創出補助事業
後援：秋田県文化振興課、秋田県教育委員会、秋田公立美術大学、秋田市文化振興課、秋田県芸術委員会、秋田県文化センター、秋田県会館情報課、A5秋田県立、ART秋田プレイス、A5秋田駅前劇場、A5秋田駅前劇場
連絡先：NPO土方巽記念秋田舞踏会
☎ 018-864-1179
Email: hiikata-akita@live.jp



土方巽 徳重隆 徳彰 梶谷尚



大人のためのブックトーク第六回